令和6年度自己評価シート（最終評価）

学校名　三次市立三次中学校

【経営理念】

ミッション(使命):「生徒の進路選択の幅の拡大と希望進路の実現」を図り，持続可能な地域を形成する人材を育成する。

学校教育目標 :自律と貢献の志を持ち，主体的に進路を選択する生徒の育成

～　一所懸命が好き！　夢と志を持ち　輝く　私たち　～

達成度	達成値 / 目標値	×100	評価	A≧100
				80≦B＜100
				60≦C＜80
				D＜60

中期経営目標

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	目標値	評価	達成状況	担当部等
1　主体的な学習による学力の向上							
確かな学力の育成	基礎学力の定着・向上	①市立三次中授業スタイル（SMP）を基盤とした学習者起点の授業研究の実施，研究成果を各教科へ広げる取組 ②学力調査，定期試験を目標，検証軸とした短期 PDCA サイクルによる取組 ・課題把握に基づく具体的目標設定と取組 ③課題発見・解決過程のある単元づくりの推進	・定期試験における知識・技能，思考・判断・表現の観点達成率	各教科の知識・技能60%以上，思考・判断・表現力50%以上	D	・定期試験における観点定着状況（３年生のみ学年末試験までの数値） 知識・技能 22/50，思考・判断・表現 28/50 ・市学力調査経年比で前年を上まわった教科は 1/5， ・30%未満の生徒： １年 11.4%， ２年 12.5%	教務部
			・市学力検査（平均正答率と 30%未満生徒の割合）	実施教科全てで経年比較において前年度を超える，30%未満生徒のべ７%			
	育成すべき資質・能力の向上	①特に育成を目指す資質・能力（「３つの力」）の継続的な育成・向上 ・育成すべき資質・能力を，生徒教職員が共有した　各教科・領域・行事等への取組 ・各教科・領域・行事等への取組における変容の検証 ②各種検定，コンクールへの応募・挑戦 ・各種検定（漢検・数検・英検等）やコンクール等への挑戦 ・計画的なコンクールへの応募	・自校の質問紙「３つの力アンケート」	肯定的評価８０%以上	A	・「３つの力アンケート」平均値 90%を達成 ・総合質問紙調査においてすべての項目において全国平均を -4.3%下回った。 ・検定受検生徒 95%（漢字検定 22 名，数学検定 16 名，英語検定 85 名）	
			・総合質問紙調査（コミュニケーション能力・協調性・主体性，成功体験と自信）	３つの資質・能力にかかわる項目，全国平均以上			
			・各種検定受検生徒の割合	延べ受検率 50%以上			

【評価結果の分析】

・定期試験における観点達成率について，各教科の知識・技能が 60%以上，思考力・判断力・表現力が 50%以上になった教科・学年はそれぞれ 22/50，28/50 となり約半数が達成した。

・学年別に見ると知識・技能については１年生では 5/15，２年生では 3/15，３年生では 14/20 となっており３年生で定着率が高いが１・２年生では観点達成率 60%に達している生徒は３割程度である。また思考力・判断力・表現力については１年生では 9/15，２年生では 9/15，３年生では 10/20 となっており全学年で観点達成率 50%に達している生徒は５割程度である。

・今年度は思考力・判断力・表現力よりも知識・技能の達成率が低い結果であった。また１・２年生においては，両観点において１学期よりも２学期の方が，達成率が低くなった。この結果から学習の積み重ねができておらず，学習内容が難しくなる１学期よりも２学期，１年生よりも２年生の方が定着していないことがわかる。３年生においては受検を意識し学習に対する意識が高いため年間を通じて一定の定着率を維持しているものと考えられる。

・市学力調査経年比で前年度を上回った教科（２年生）は英語の１教科であった。

・学力到達度検査においては，１年生で全国平均を上回った教科は国語・理科の２教科で，２年生ではすべての教科で全国平均を上回ることができなかった。また通過率 30%以下の生徒については，１年生において昨年より増加している。

・資質・能力の調査では，自校アンケートでは肯定的な評価であるが，総合質問紙調査（i-check）では，すべての項目において全国平均を下回った。学年別に見ると，３年生のコミュニケーション能力と協調性は全国平均を上回っている。

【今後の改善方策】

・引き続き，学力向上に向けて，個に応じた授業実践及び生徒に学びを選択・調整させる場の設定を中心に授業改善を行っていく。また，生徒の学ぶ意欲を向上させる仕掛けとして定期試験を工夫し，生徒に「やればできる」を実感させ，主体的な学びにつなげる取組も継続していく。

・資質・能力の面は，今後も学校生活全般を通して育てていきたい。特に，活動を通して目指す姿や育成する資質・能力を明確にして生徒一人一人に意識させて取り組ませていく。また，各種検定について，引き続き積極的な働きかけを行っていく。

豊かな心の育成	２　社会性，モラルの向上						
	生徒指導諸問題の未然防止	①生徒指導規程の周知徹底と一貫指導 ・生徒指導規程の全家庭への配布，学校総会等での説明 ・生徒指導規程をもとにした全教職員での統一的な生徒対応（特別な指導を含む） ②生徒理解と即時の組織的な対応 ・教育相談委員会，生徒指導部会の定例化 ・スクールカウンセラーの積極的な活用 ・各学期における教育相談ウィーク及び生徒・保護者アンケートの実施 ・全職員による校内巡回及び生徒への肯定的な声かけ	・問題行動の状況と対応（前年度比較）	昨年度以下	C	・いじめ認知３件（昨年度４件） ・不登校生徒数９名（昨年度７名） ・問題行動11件（窃盗・万引き１件、生徒間暴力５件、性に関する問題行動２件、いじめ３件）（昨年度７件）	生徒指導部
			・不登校生徒数	昨年度以下			
			・諸問題認知解決指導１００％	100%			
	生徒会活動の活性化	①日常的な委員会活動の充実 ・「みよしっ子あいさつ運動」の実施 ・生徒会各委員会から２項目以上の企画提案 ・生徒会執行部会の定例化（週１回） ・部活動部長会の定例化（月１回） ②人間磨きの場としての部活動 ・指導者の積極的参加と指導 ・生徒が自ら考え実行，反省できる活動	・委員会活動実施状況（各委員会からの企画，実施）	各委員会１回以上	B	・各委員会の取組 ①学級委員会→あいさつ運動・全校レクの企画・運営 ②生活委員会→あいさつ運動・服装点検・ロッカー点検 ③ボランティア委員会→ペットボトルキャップ集め，ベルマーク集め，花の植え替えボランティア企画 ④図書委員会→本の貸出，本の紹介放送・掲示 ⑤美化委員会→掃除放送，用具チェック ⑥体育委員会→昼休憩ボール貸出，全校レク企画・運営 ⑦文化委員会→給食放送・文化祭の運営 「生徒会活動・学校行事への取組」肯定的評価87.2% ・総合質問紙調査各項目の肯定的評価 ・計画性54.2% ・目標設定81.8% ・自己認識73.9% ・社会性75.7%	生徒指導部
			・生徒満足度	肯定的評価80%以上			
			・総合質問紙調査（計画性・目標設定）質問紙調査（自己認識・社会性）	各項目80%以上			

【評価結果の分析】

・生徒指導上の諸課題については、１学期に３件の生徒間暴力、２学期に生徒間暴力１件、窃盗・万引き１件、性に関する問題行動２件、いじめ２件、３学期に生徒間暴力１件、いじめ１件が発生した。いずれも本人への指導及び保護者・関係機関との連携を行い解決及び継続指導中である。生徒間暴力やいじめについては、昨年度までSNSを介して生起していた事案が多かったが、今年度は相互の関わり合いの中で自分よがりのコミュニケーションに起因しているものが多い。暴力は絶対にいけないということを継続して指導すると共に、相手の気持ちを考えたコミュニケーションのあり方についてさらに指導が必要である。

・いじめについては、以前からの関わりの中で叩かれたり突かれたりする行為が継続していることに腹を立て、相手の机上に悪口を書いたメモを置いた事案と、継続した悪口を言い続けていた事案を認知した。いずれも軽い気持ちで行った行為であり、相手が傷ついていることに思いが至らず起きている。関係生徒は事案による精神的苦痛や不登校には至っていないが、継続したケアを行う必要がある。今後もi-checkやいじめアンケートを実施し、その結果をもとに細かな指導を行っていく。
・不登校生徒及び長期欠席生徒については、昨年度より増加している。担任を中心に、保護者・生徒とのつながりを切らさないよう対応を行っているが、連携が図りにくい家庭もあり、全体での情報共有を行い、今後さらに組織的に対応していく必要がある。
・生徒会活動については、新執行部から委員会が再編成され、今後は５つの委員会での活動となる。生徒が主体となって行う取組や行事を今後行う予定である。

【今後の改善方策】
・生徒指導の諸課題においては、関係機関とも連携を深め、より効果的な指導を行うと共に、継続したソーシャルスキルトレーニング等を行い、他者の気持ちを考える力を身に付けさせる。
・不登校生徒及び長期欠席生徒については、今後も学年会を中心に取り組みを行っていくが、定期的な生徒指導部の開催等により、学校全体に情報を共有していく。
・いじめ認知については、引き続き生徒全員の面談や各種アンケート等、日常的な声かけを行い、生徒の少しの変化も見逃さないようにする。
・生徒会活動を充実させるために、これまで通りに執行部会を定期的に開催しながら、新たな取組を行っていく。

健やかな体の育成	３　生活習慣の定着と体力の向上						
	基本的生活習慣の充実	① 生活づくり週間の取組の実施 ・定期試験期間中に生活づくり週間の取組を行う。（起床時刻，就寝時刻，学習開始時刻の三点と，学習時間，メディア利用時間，朝ごはん摂取） ②①の結果について資料を作成し，保護者啓発を行う。 ③みよし学園健康教育部会の取組を三次中学校区で共通して実施する。	三点固定が定着した生徒の割合（生活アンケート）	70%以上	B	睡眠について全校朝会時に指導を行うとともに，ほけんだより等での生徒保護者への啓発を行った。 「三点固定の定着」前期 75.3% →後期 72.3% 「メディア利用時間の短縮に努めている」前期 45.8% →後期 43.6%	健康安全部
			メディアコントロール実施達成率（生活アンケート）	肯定的評価 60%以上			
	健康安全意識と体力の向上	①体力つくりの工夫・充実 ○保健体育の授業における工夫・充実 ・主運動と関連付いた体つくり運動の計画的実践 ・新体力テストのフィードバックと個々の体力に応じた運動プログラムづくり ○運動部活動における体力つくり ②安全教育の工夫・充実 ・委員会等を活用したけがの予防に係る安全指導	・体力・運動能力調査（国・県平均以上の生徒割合）	B評価以上の生徒が 50%以上	A	４月に実施した体力・運動能力調査の結果（B評価以上の生徒の割合）：48.2% 男子 21.9% 女子 74.6% 11 月に実施した体力・運動能力調査の結果（B評価以上の生徒の割合）：男子 50% 女子 84.96% スポーツ振興センター災害共済利用件数 （１月末現在） ２２件 （R５年度　28 件） （R４年度　23 件） （R３年度　28 件）	健康安全部
			・スポーツ振興センター災害共済利用割合	前年度比 ＋10%以内			

【評価結果の分析】
・保護者とともに睡眠と朝食の大切さについて考えてもらう便りを作成，配布した。また便りを活用しパワーポイントの資料を作成して全体指導を行った。
・１学期の生活アンケートでのメディア使用３時間以上の割合は 36.1%。２学期については 24.3%であった。「携帯とテレビの利用をもう少し時間を改善したい」「勉強時間を増やし，スマホを使う時間を減らしたい」等の振り返りも多くみられ，メディアコントロールについて意識している様子がうかがえる。
・１月末までのスポーツ振興センター災害給付金の対象件数は２２件だった。昨年同様，休憩時間中の怪我は減

少している。
・体力・運動能力調査において，全体での総合評価 B 以上の生徒の割合は，48.2%であり目標値に達していない。男女別でみると全学年女子が 74.6%，全学年男子が 21.9%であり昨年に引き続き，女子の体力向上が伺われる。
・体育の授業初めに主運動と関連付けた体力を高める運動を継続的に実施しており，計画的・継続的な体力づくりにつながっている。

【今後の改善方策】
・職員側からの指導だけではなく，委員会活動等を活用して生徒の自主的実践的な活動につなげる取り組みを進めていく。
・学習等でもメディア機器の利用機会が増加し，利用時間容等，自己コントロールする力が必要不可欠である。継続して，健康面やメディアリテラシー等多方面からの指導が必要である。また，メディア視聴以外の余暇の過ごし方を考えられるような啓発も行っていく。
・11 月に２回目となる新体力テストを行った結果、男女ともＢ評価以上の生徒が増加した。体育理論で自己の体力を分析し、体力づくり計画を作成・実施した効果が出ていると言える。
・体育の授業において，運動の楽しさを実感できるような指導の工夫を行い，日常生活において自ら運動に親しむことのできる態度を育てていく。

信頼される学校	４　本市の代表校としての関心度・信頼度の向上						
	小中一貫教育の充実	①校区を教材化した，まちガイド実施を柱とした教育課程の展開 ②小学校と連携した児童生徒交流活動の計画実施	・オリジナルカリキュラムの生徒満足度	70%	A	・全学年の総合的な学習の時間では，地域の方々を講師に迎えての探究的な学習を行ったり，三次ふれあい祭等へ生徒が参画したりした。３年生は，豊田庄吾様を講師に迎えて，地域・保護者・在校生・校区内の小学校６年生を招いて立志式を行った。 「学校生活は楽しい」 生徒 91.5% 「ボランティア活動は人のために役立ったと思う」 生徒 89.4%	総務部
			・オリジナルカリキュラム実施率（まちガイド展開プログラム）	全学年実施			
	学校への満足度･信頼度の向上	①学校，学年（学級），保健，生徒指導等の各種通信の計画発刊とホームページ更新 ・月１回以上 ②各種メディアを通した積極的情報発信 ③学校運営協議会を核とした日常的な連携	・本校に入学してよかったと思う生徒・保護者の割合	90%	B	・「本校に入学してよかった」学校生活アンケート 生徒　95.8% 保護者　96.1% ・文化祭の参加率は 60.4%，１月授業参観は，49.0%の参加があった。	総務部
			・保護者・地域関係者の学校支援活動参加数	保護者数のべ 70%以上			

【評価結果の分析】
・みよし学園（小中一貫事業）における交流活動として，合同のあいさつ運動や一斉ボランティア清掃活動，２年生の職場体験発表会や３年生の立志式等を児童や保護者，地域の方々と共に実施することができた。
・コミュニティスクールにおいての地域との連携を活かし，総合的な学習の時間を中心に地域の方々を講師に迎えての活動を積極的に行うとともに，３年生は地域社会との共創を目指して地域の行事に参画することができた。
・「本校に入学してよかった」と回答した生徒の最終評価は，95.8%であった。また，保護者の最終評価も 96.1%と高い水準を保っている。
・各種通信や tetoru による情報発信は月１回以上実施している。ホームページ更新も定期的に更新している。

【今後の改善方策】
・今後も，保護者，地域からの学校教育活動に対する支援を頂けるよう，各種通信やメディアを通じた情報発信を続け，学校への満足度・信頼度の向上を図る。